『地域が新しい家族』のまちづくり
5か年計画

絵：あさごふれ愛の郷ご利用者

社会福祉法人
朝来市社会福祉協議会

はじめに

急速に進行する少子化、高齢化の波は、地域や家族、職場の支え合いの機能の低下を招き「無縁社会」の状況が一層深刻化してきました。その結果、経済的困窮者や孤立化など様々な問題が提起されてきました。

このような社会背景の変化に対して社会福祉協議会では、５年先、１０年先の市民が安心して生活出来る地域づくりのため朝来市地域福祉推進計画を策定しました。

私達は刻々と変化する社会の中で、何が必要なのか。その課題を把握するため各役員の皆様のご協力を得て各種のニーズ調査を実施させていただき、「買物や医者に行けない」「除雪が出来ない」「ゴミ出し、分別が出来ない」「人口過疎による不安」など多くの課題が明らかになりました。これらの課題を解決するため、朝来市地域福祉推進計画では「地域が新しい家族」をスローガンにその実現に向けて役職員一同総力を挙げて取り組みます。

地区役員を始め、区民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

終わりになりましたが、本計画の策定にあたり多大なご協力をいただきました各関係者の皆様に心から感謝とお礼を申し上げます。

平成２８年１１月

社会福祉法人

朝来市社会福祉協議会

会長　戸田　幸男

目次

第１章　地域福祉推進計画の作成にあたって

１．第１次朝来市地域福祉推進計画を振り返って ---------- 4

２．計画策定の背景と主旨 ---------- 4

３．計画の位置づけ ---------- 6

４．計画の期間 ---------- 6

５．計画の方向性 ---------- 7

第２章　地域が直面している課題とは

１．仮想Ａ区の現状について ---------- 9

２．５年後の問題・課題をイメージしてみました----------10

３．仮想Ｂ区との比較 ----------11

第３章　「誰もが安心して暮らせるまちづくり」の実現のために

１．朝来市社協の考える「自助・互助・共助・公助」とは ----------15

２．５年後を見据えた「互助」「共助」の新しいカタチ ----------16

３．計画の目標　地域が新しい家族～仮想家族からの地域福祉づくり～ -------18

計画の柱①　生きる・楽しむ・感じる「食事」を ----------19

計画の柱②　支え合う安心　ここに暮らし続けたい ----------26

計画の柱③　となり近助　お互い様の歩み寄り ----------29

計画の柱④　地域のための、お金の生み方 ----------34

計画の柱⑤　協働が育む　新しい地域福祉 ----------37

資料集

■　用語解説 ----------40

■　朝来市社協の「３つのＣ」 ----------41

■　地域発☆　支え合う地域の担い手メッセージ ----------42

第１章

地域福祉推進計画の作成にあたって

１．第１次朝来市地域福祉推進計画を振り返って

２．計画策定の背景と趣旨

３．計画の位置づけ

４．計画の期間

５．計画の方向性

地域福祉推進計画の作成にあたって

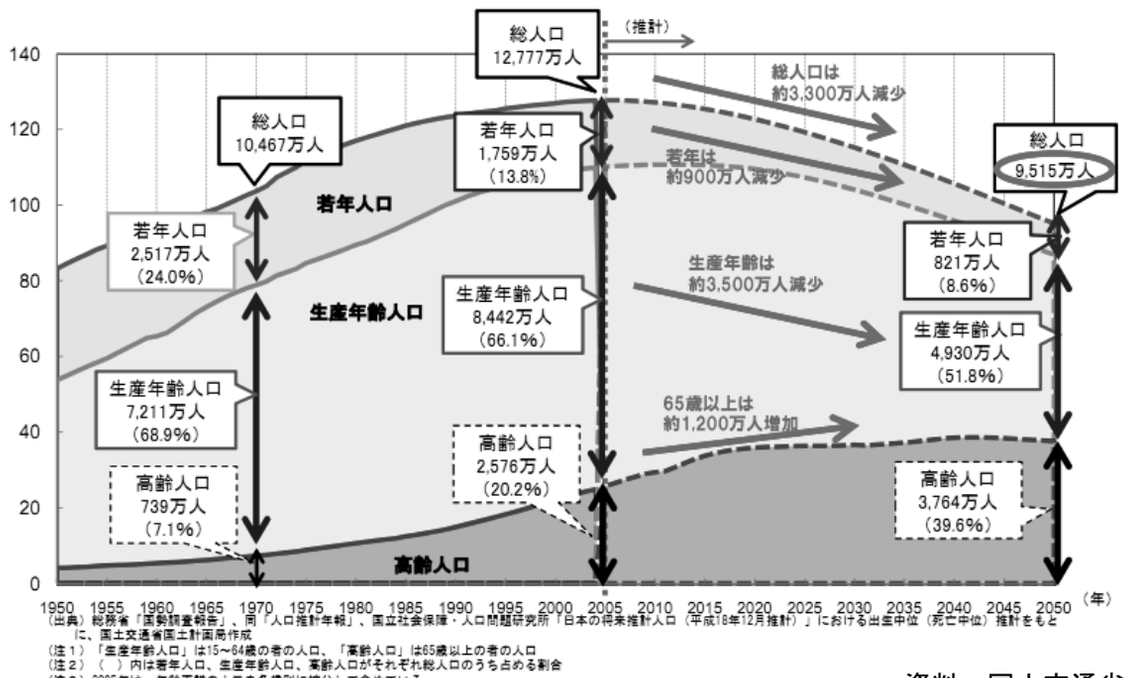
１．第１次朝来市地域福祉推進計画を振り返って

朝来市社会福祉協議会（以下、「市社協」という。）は「誰もが安心して暮らせるまちづくり」をスローガンに地域福祉の推進に努めてきました。平成 23 年度から 5 年間は「人口減」「無縁社会」などの地域の現状を踏まえた地域福祉の推進を目的に、「第 1 次朝来市地域福祉推進計画」を策定しました。

第 1 次朝来市地域福祉推進計画では、『地域と共に歩む　福祉のまちづくり』を計画目標として、「地域と話し合う」・「地域と行動する」・「地域と支え合う」ことを計画の柱に活動してきました。地域ミニデイなどの地域活動拠点の整備・運営支援や、地域の社会資源である地域福祉を担う人材の育成、あらゆる相談に対応していく総合相談機能の構築・運用などの一定の目的は果たされましたが、社会や地域を取り巻く現状は刻々と変化していく状況下では時代に即した計画が求められており、この第 2 次朝来市地域福祉推進計画では、第 1 次朝来市地域福祉推進計画の反省点を含めた新たな地域福祉活動の推進が求められています。

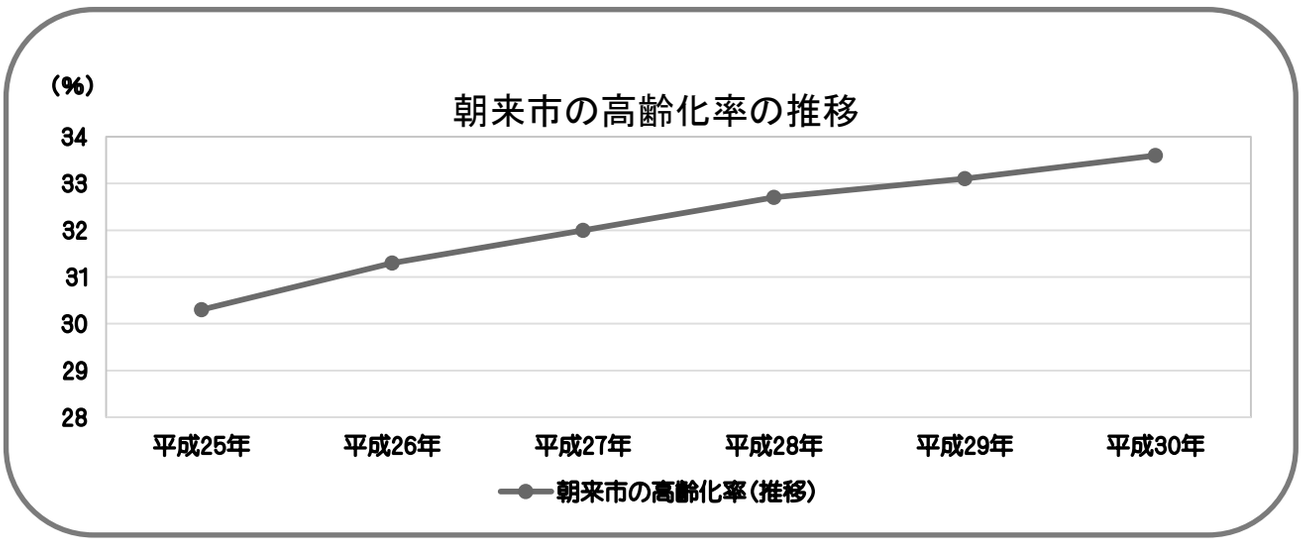
２．計画策定の背景と趣旨

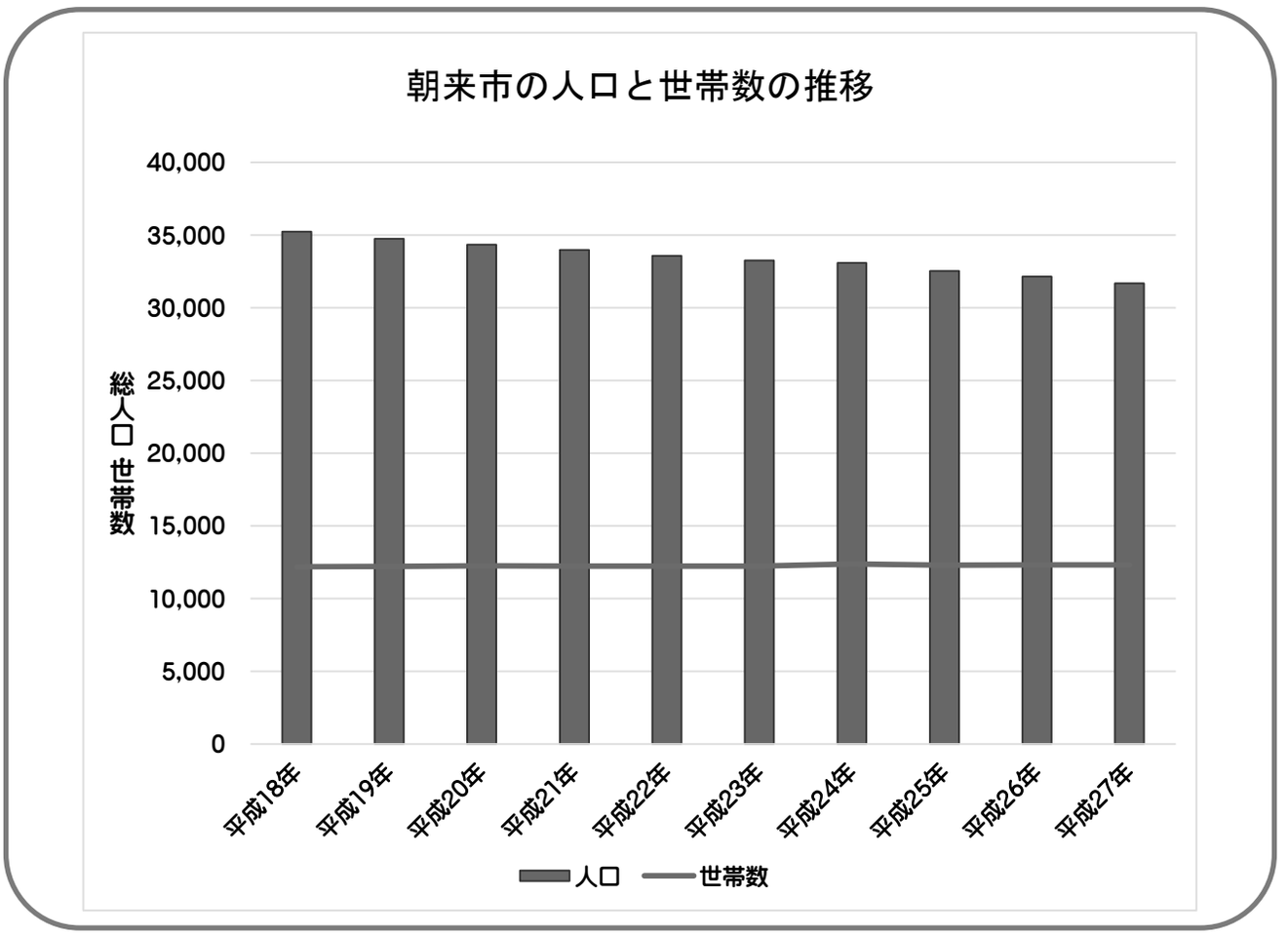
近年、社会情勢は大きく変化しつつあります。人口減少や少子高齢化、空き家や空き地の管理、地域交流の希薄化、高齢者の生活上の問題、障がい者の社会参加、制度の狭間の問題等の社会的課題がある中で、課題の解決に向けた取り組みをより具体化し、第 2 次朝来市地域福祉推進計画の目標が達成できるように目指していきたいと考えています。



（出典）総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成18年12月推計）」における出生中位（死亡中位）推計をもとに、国土交通省国土計画局作成
（注１）「生産年齢人口」は15～64歳の者の人口、「高齢人口」は65歳以上の者の人口
（注２）（　）内は若年人口、生産年齢人口、高齢人口がそれぞれ総人口のうち占める割合
（注３）2005年は、年齢不詳の人口を各歳別に按分して含めている

資料：国土交通省





資料：朝来市ホームページより

日本の総人口は 2050 年には、約 25%の 3,300 万人が減少し、9,515 万人になると推計されています。また、65 歳以上の高齢者は全国平均で 39.6%となり、約 3 人に 1 人が高齢者となります。朝来市の高齢化率は、平成 27 年では全国平均 26.8%に対し 32.0%と全国平均を上回る数値となっています。

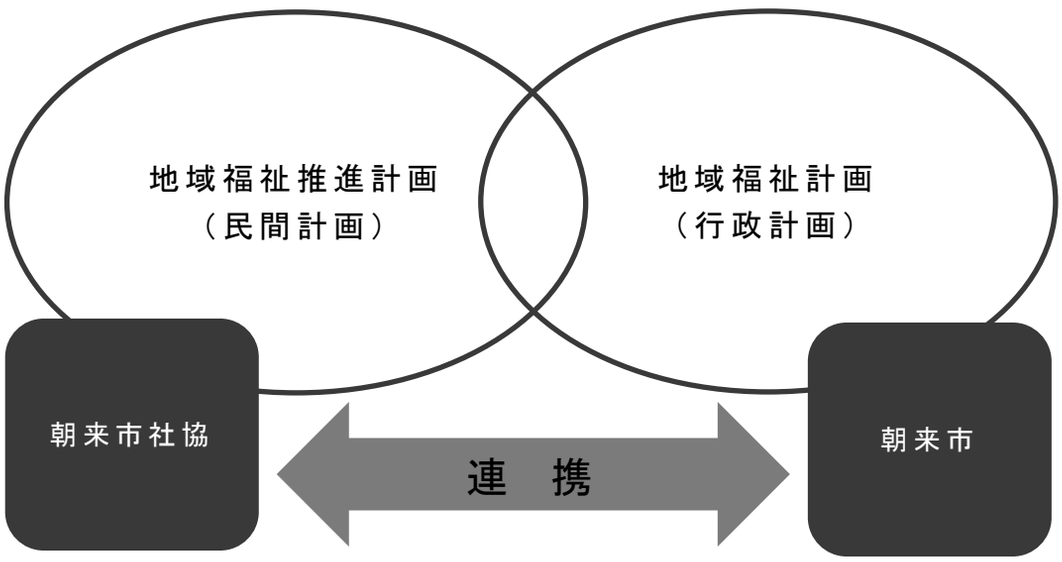
朝来市の合計特殊出生率は、全国・兵庫県の数値（平成 22 年データ）と比べてみても上回る数値となっていますが、人口減少は進んでいます。急速な地域の過疎化が進む中、住み慣れた地域で暮らし続けるようにするためには、地域による支え合い・助け合いが不可欠となってきています。

３．計画の位置づけ

市社協が計画する推進計画とは、朝来市における地域福祉を推進するために、地域住民やボランティア、福祉関係団体、行政等と連携・協働しながら進めていくように策定した行動計画（民間計画）です。

一方、朝来市地域福祉計画とは、社会福祉法第 107 条に基づき、行政が地域福祉推進のために策定した行政計画となります。

行政が計画する地域福祉計画と社協が計画する地域福祉推進計画が、地域福祉推進のために連携し、一体となってすすめていくことが重要となります。



４．計画の期間

第 1 次朝来市地域福祉推進計画は、平成 23 年度から平成 27 年度の 5 年間の計画でした。本計画は、引き続き平成 28 年度から平成 32 年度の 5 年間の計画となります。近年、福祉における社会情勢も目まぐるしい変化があるため計画の評価・検証に関しては定期的に行い、必要に応じて計画の見直しを行います。

朝来市地域福祉計画は、平成 24 年度から平成 28 年度の 5 年間の計画を策定されており、行政と連携・協働して地域福祉推進を図っていきます。

５．計画の方向性

●第１次地域福祉推進計画の反省を基に、地域福祉推進を目指し継承しなければならないことは継承する。
●地域住民の想いや願いをよくお聞きし、ニーズに合った目標の見直しを行う。
●住民に身近な小地域を単位として、生活課題の視点から地域福祉の推進を図っていく。
●朝来市地域福祉推進計画は、行政と連携し進めていく必要があるので、協働して地域福祉の推進を図る。

地域福祉推進体系

目標を確実に達成していくために、計画（plan）、実行（do）、評価（check）、改善（action）の過程を順に管理、確認していきます。

計画（plan）
住民の想い、願い
地域支援員の情報収集等

実行（do）
聞き取り調査
住民との意見交換会
計画の取り組み等

評価（check）
計画の実績確認
各地域センター運営委員会等

改善（action）
計画の見直し
ミーティング等

最後の改善（action）では、評価（check）の結果から今後どのような対策を行っていくべきかを検討します。最初の計画（plan）の内容を継続・修正・不必要と思われる内容については破棄のいずれかにして、次回の計画に結び付けます。このらせん状の過程を繰り返すことによって改善し続け、地域福祉の推進・向上を目指していきます。

第 2 章

地域が直面している課題とは

１．仮想 A 区の現状について

２．仮想 A 区の 5 年後の問題・課題をイメージしてみました

３．仮想 B 区との比較

地域が直面している課題とは

１．仮想 A 区の現状について

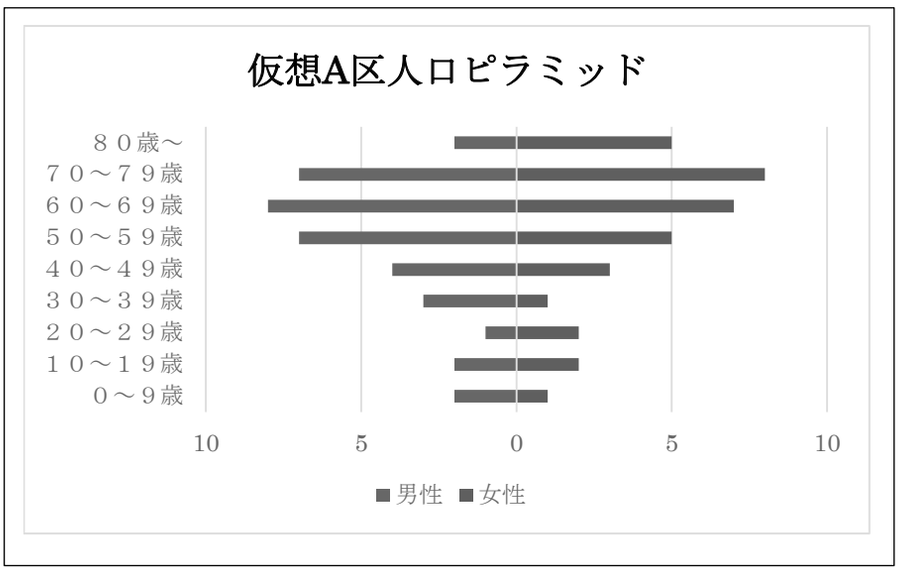
朝来市にある仮想 A 区（市内の特徴を縮図し、できるだけ現実に近い設定とした仮想の集落）をクローズアップしてみました。客観的に見ることで A 区の様々な現状が見ることができます。ではどのような現状があるのでしょうか。皆さまのお住いの区とも比べながら考えられるとより現実的になると思います。

（１）立地・周辺環境

〇山々の谷間にあり、約 8 割が山林で占め、谷の入り口から車で 15 分と奥の方である。
〇バス停もあるが、便数が 1 日片道 2 本。またバス停は区の端にあり、自宅から距離が遠かったり、傾斜があったりと高齢者の徒歩では大変である。
〇近くに商店がなく、買い物は街にあるスーパーまで車かバスで出かける必要がある。週 2 回ほどは魚をメインで行商が売りに来るものの、値段や品揃えからいうと頼れる存在ではない。
〇高齢化や担い手不足から空き家、休耕田が目立ってきている。

（２）住民データ

人口は 70 人で世帯数は 30 世帯。65 歳以上の高齢化率は約 40%。お一人暮らし高齢者世帯は 3 世帯、高齢者夫婦の世帯数は 6 世帯となっており、人口は年々減少傾向にある。



（３）仮想Ａ区の地域活動や地縁団体

区の行事として、盆踊りや秋祭りがメインで、区の多くの方が参加される。老人クラブでは清掃作業やグラウンドゴルフをされている。子ども会はあるが、数世帯による構成なので会としての運営に疑問を感じている。また、女性の有志の方がミニデイを開催されており、今後の地域のことを考えながらできるだけ継続した取り組みになるよう来られる方を巻き込みながら奮闘しておられる。近くに神社があるが、最近は昔ほどの手入れが出来ていない。

（４）全体的な区の印象

高齢者の方は今さら何かチャレンジする気力は乏しく、自分たちより若い世代に任せていきたいと思われている。勤労者世代は将来的な不安を感じながらも、ご自身の仕事や家庭が第一となってしまい、なかなか主となって地域を引っ張っていく存在にはなっていない。若者世代は不便なこの地域から、機会があれば出ていく傾向があるが、結婚などを機に、定住する可能性も大いにある。

２．仮想Ａ区の５年後の問題・課題をイメージしてみました

一見して、朝来市にありそうなこのような仮想 A 区には、どのような問題・課題があるのでしょうか。一般的に想像できる問題・課題もあれば、少し踏み込まないと見えてこない潜在的な問題・課題もあります。ここでは 5 年後の仮想 A 区を想像し、問題・課題をイメージしてみます。

○空き家も増える中、昔の向こう三軒両隣のような付き合いがなくなっている。

○世代間でふれあう機会がますます少なくなってきた。

○母子家庭が 1 世帯あるが、母親の仕事が忙しく、子どもの様子を見ているとちゃんと栄養のある食事が摂れているかどうか心配。

○高齢者は身体機能が低下し、5 年後はバスで買い物にも行けなくなる。また、遠方に住む家族の負担も増やすわけにはいかない。

○認知症のある方の徘徊が見られるが、同居されるご家族は仕事もあり、なかなか十分に見守りができていない。

○知的障がいをお持ちの方（50 歳代）の親が亡くなり、知的障がい者が一人暮らしとなられる。一人で暮らす生活能力はあるのだろうか、地域とどう向き合っていくのだろうか。

○今 20 歳代の方は結婚適齢期だが、若者の定住には不便なこの A 区では住まれない確率が高い。

○人口が減少傾向にある中、高齢になっても祭りや葬式などの行事への協力が重荷になっている。また、単純に次世代の担い手も少なく、世帯減少により財源も乏しくなり行事の中止なども懸念される。

○子どもが少なく、新しく子どもが誕生する予定も期待もない。子ども会組織も 2 世帯ほどで運営していくことになる。ここまでして運営していくことの疑問が感じられる。

３．仮想 B 区との比較

（１）仮想 B 区の状況

一方、こちらは街中の区。昔からの住宅が隙間なく連なって密集し、向こう三軒両隣りの関係がとても大切にされている。町の中心地にあるため、周辺にはスーパー、病院、市役所、学校などが近くにあり便利。その便利さは他の地域の方から羨ましがられるほど。近年は郊外に大型店舗などの出店が続き、昔は数多くあったこのあたりの個人商店は少しずつ閉店されてきているが、地域の人からお店を続けて欲しいという要望があるので現役で頑張っている方もおられる。若者世代は進学で都会に出たら帰ってくることは少なく、約半数は帰ってこられない。そのようなことから地域の若返りも容易ではなく、高齢化が進み、高齢者夫婦や一人暮らし世帯が全世帯の半数近くを占めるような状況となった。また、空き家が増えている。最近は空き家を潰して新しい家を建て、地域外の方が定住される動きもある。

昔から個人商店の世帯が多く、商売が優先されており地域の活動は少なかった。夏まつりなどは周辺地域を挙げて盛大に開催されている。最近は有志の方が地域内の交流の活発化を目指し、地域ミニデイを立ち上げ、高齢者の方々は定期的な交流を楽しまれている。また、こうした流れを絶やさぬよう、子どもやその親、男性を巻き込んでの世代間交流にも取り組んでおられる。

仮想 A 区とは環境面では反対の地域と考えられる。

（２）仮想 B 区の５年後の問題と課題

5 年後の仮想 B 区を想像し、問題・課題をイメージしてみます。

○スーパーや病院が近くにあるが、車などの交通量が多いため徒歩では行きにくく、事故に遭わないか心配する。

○便利の良い場所なので、若い世代が空き家に定住していただけるようにアピールをしていきたい。

○商売を通じて交流が大切にされていた地域でもある。個人商店が少なくなる中、それに代わる地域活動をどう展開していくのか。

○一人暮らしの見守りが人任せになり、十分にできていない。

課題をイメージしていくと…
立地や周辺環境等が異なっていても同じ課題がみえてきます！

○60 歳を過ぎても働きに出ていかれている方が多く、地域活動の強化や充実に繋がらない。

○高齢者世帯は、日中に何かがあったときや困りごとがあったときには心細く、高齢者自身では対応できないことがある。

○高齢者世帯では、健康に不安のある生活を送られている。

○高齢者世帯の周りは働きに出ている世帯のため、支援が受けにくい。また、年金生活でギリギリの生活を送られている。

○5 年後には勤労世代も高齢者になる人が出てくる。年金生活者が増え、区の財源を確保できるのか不安がよぎる。

○地域ミニデイもどんどん高齢化。ミニデイをお世話していたスタッフ自身も参加する側の高齢になってきている。

A 区や B 区に限らず、5 年後には同様の課題や問題を抱える区は、多く出てくると考えられます。このような諸問題は本市でも共通の課題や問題と言え、近い将来、必ず直面すると言っていいでしょう。

しかしながら、現代の社会環境や法施策では解決できないものも多く、関係機関等と連携しながら、住民の皆さんの主体的活動が望まれているところです。直面する課題や問題に住民同士が気づき、どのように乗り越えるのかを考え、みんなで活動していくことの一連のプロセスが地域福祉活動ですが、住民同士で気づき合うことがスタート地点であり、活動の源泉となりえるものだと思います。

第３章

「誰もが安心して暮らせるまちづくり」実現のために

１．朝来市社協の考える「自助・互助・共助・公助」とは

２．５年後を見据えた「互助」「共助」の新しいカタチ

３．計画の目標　地域が新しい家族～仮想家族からの地域福祉づくり～

	キーワード
計画の柱①　生きる・楽しむ・感じる「食事」を	『食』
計画の柱②　支え合う安心　ここに暮らし続けたい	『安心』
計画の柱③　となり近助（きんじょ）　お互い様の歩み寄り	『となり近助（きんじょ）』
計画の柱④　地域のための、お金の生み方	『お金』
計画の柱⑤　協働が育む　新しい地域福祉	『協働』

※ となり近助（きんじょ） … となり近所で助け、支え合う関係性を比喩した造語であり、その活動や考え方を述べる際に使用しています。

（P27 夢プラン⑦ を参照）

『誰もが安心して暮らせるまちづくり』の実現のために

１．朝来市社協の考える「自助・互助・共助・公助」とは

前述の朝来市の仮想Ａ区の５年後の問題・課題を見ても分かりますが、その解決に向けて、自助や公助で対応できることに限りがあるように思われます。そこで、カギとなるのは「互助」「共助」の領域です。

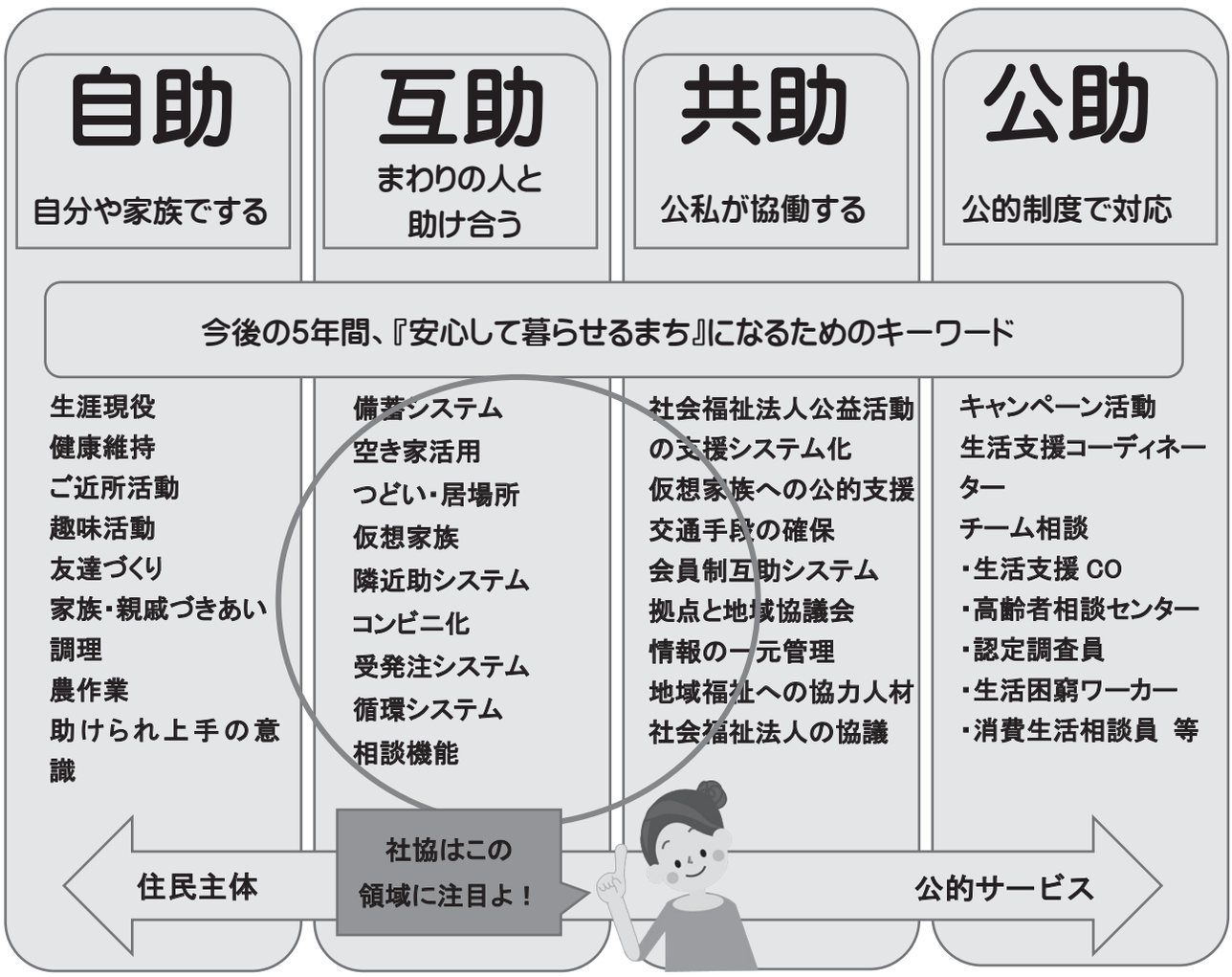


図　朝来市社協の考える４つの「助」

特に「互助」の活動には法的な影響力がなく、みんなの意識が高く、環境も整わないとなかなか活動には至りません。しかし、この住民主体の「互助」活動を推し進めていくことが、タイムリーで、行政サービスが行き届きにくい領域への支援に繋がり、住民の地域の福祉力を高めていくものと認識し、住民主体の原則に基づく社協が携わる地域福祉推進計画が論ずる主旨であると考えています。

社協ではこの「互助」「共助」に注目し、次ページ以降、掘り下げていきたいと思います。

２　５年後を見据えた「互助」「共助」の新しいカタチ

地域では数年経過すると多くの変化があります。人や環境、また社会の流れ。これからはそれらに敏感に反応し、時代に即した意識を持ち合わせないと、時代に流されて対応できず、地域は衰退の一途を辿り、しいては自分自身の生活に大きく影響が及びます。

そこで「互助」「共助」に関して、それぞれ問題・課題からキーワードを導き、いずれも既存のサービスや手法には捉われないものをイメージしています。

また下図のとおり、これらを大きく５つのテーマに分類しました。「食」「安心」「お金」「となり近助（きんじょ）」「協働」はいずれも地域生活には欠かせない構成要素であり、これらが地域生活を送る上でどうしたら安定し、効果を出していくのか。また、そのために地域ではどうしていったら良いのかを考え、提案していきます。

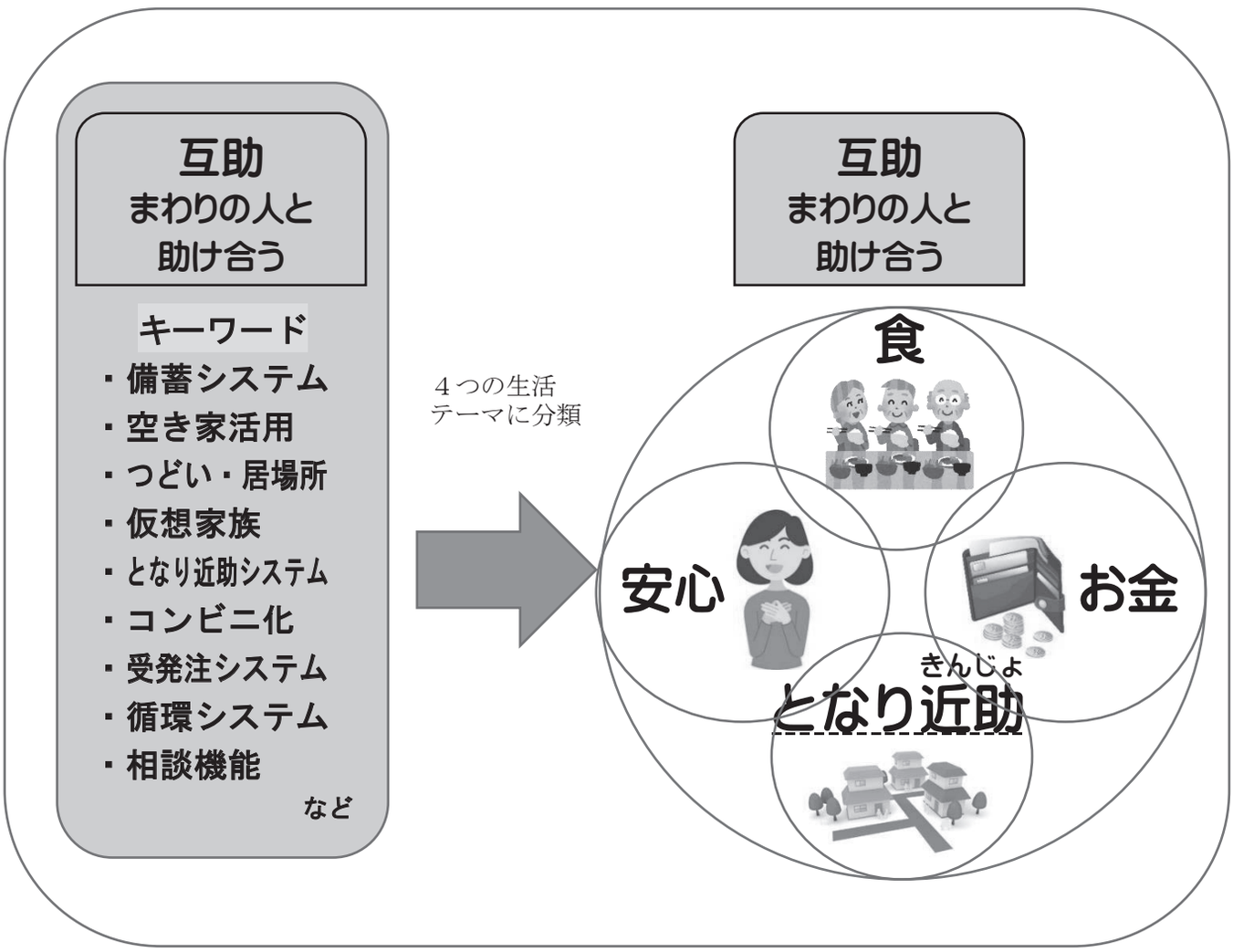


図　「互助」を構成する４つの生活テーマ

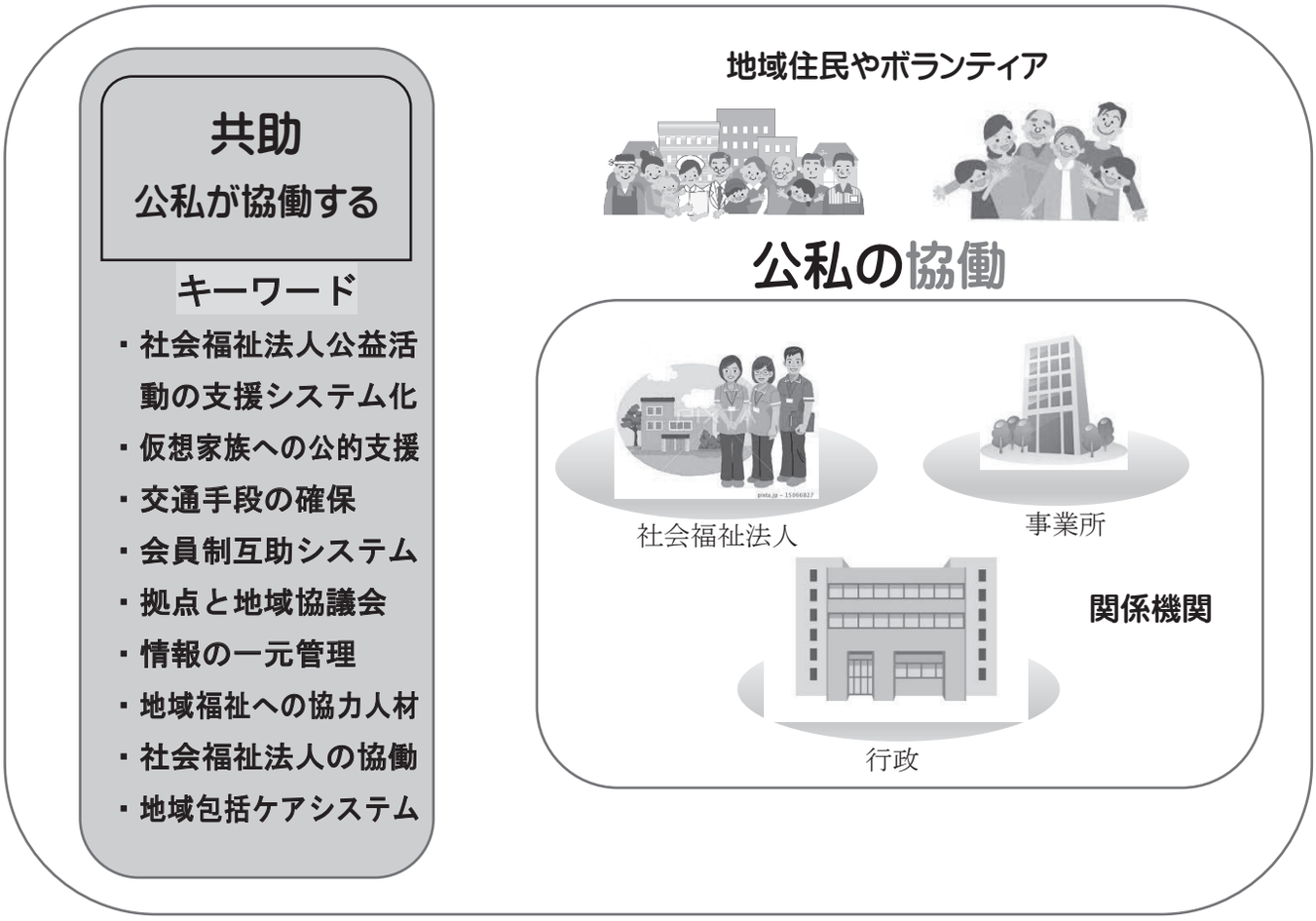


図　「共助」のキーワードと公私協働の関係性

次のページからは計画目標の図をもとに、5 つのテーマについて、今後の地域福祉活動の展開への夢プランを提案していきます。

第２次　計画目標　「地域」が新しい家族～仮想家族からの地域福祉づくり～

計画の柱①　生きる、楽しむ、感じる「食事」を
キーワード『食』

夢プラン
①近所の助け合い
　意識してみませんか？
②誰でも寄れる食堂開店
③自分たちの地域コンビニ
④地域団体（ミニデイ）の進化
⑤いつでも注文
　受発注システムの構築
⑥一歩踏み出す店舗・事業所との
　タイアップ

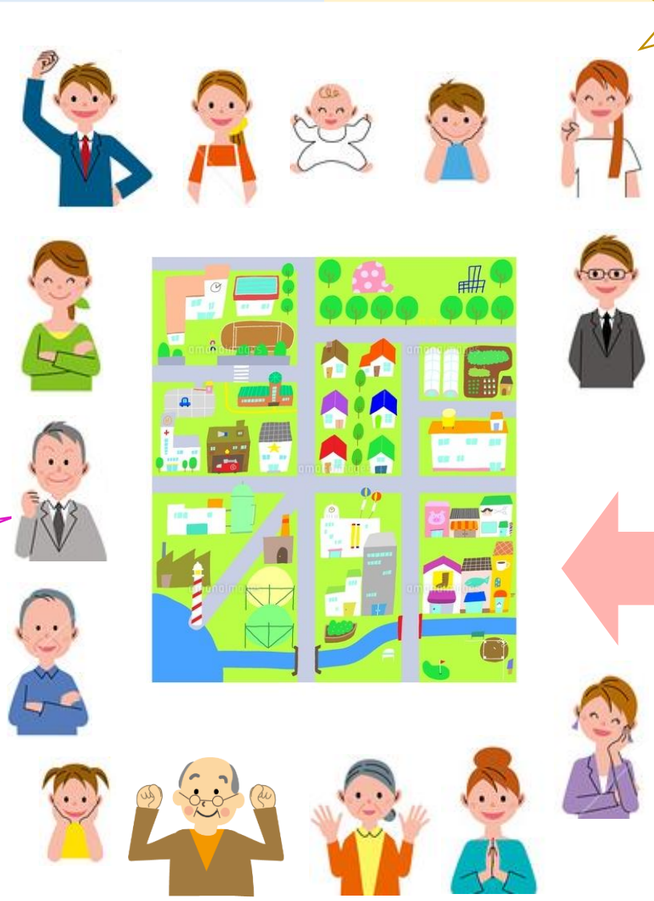
田んぼや畑を有効
活用しましょう！

将来的に買い物に
困らないシステム
づくりを考えよう！

空き家や空き地
の有効利用はな
いかしら？

事情のある世帯も多くなり
子どもの食生活が心配。
いいアイデアないかな？

ミニデイに限らずワイワ
イ集まって気軽に寄れる
ことができないかな。



計画の柱②　支え合う安心　ここに暮らし続けたい
キーワード『安心』

周りのみんなが元気で
過ごせるように考えましょ！

地域の中で触れ合う
機会をつくろうよ！

夢プラン
⑦発想を転換！
　隣り近所は「となり近助」へ
⑧安心を貯蓄
　大切な命を繋ぎとめよう
⑨気になる人（要援護者）も安心で
　繋がる地域
⑩お一人暮らしの節約・分担生活

いざという時のため、
防災もちゃんと意識
しておきたいね。

近所で助け合えるのは田舎の
強み！家族みたいな付き合いが
これから必要やろね！

計画の柱③　「となり近助（きんじょ）」お互い様の歩み寄り
キーワード『となり近助』

自分の特技や
できることを生か
せることはない
かな。

若いものが少ないけ
ど、地域の付き合いは
していかないとな。

少し困ることがあるんやけど…
手伝ってくれる人おらんかなぁ。
どこかで頼めないかな。

地域の行事が
楽しみ！

夢プラン
⑪住民ボランティアによるお助け
　グループ活動
⑫会員制の助け合い活動
⑬ちょっとしたお手伝いが
　ちょっとしたボランティアに

みんなで集まって
助け合うことは
できないないかな？

計画の柱④　地域のための、お金の生み方
キーワード『お金』

お金に頼らずに
できることはない
かしら？

テレビでも見るけど
地域でお金を稼ぐことも
必要な時代かもね。

夢プラン
⑭生み出せお金！
　地域資源を生かしたコミュニティ
　ビジネス
⑮持続可能な新たな買い物手段
⑯仮想通貨を利用して地域の活性化

計画の柱⑤　協働が育む　新しい地域福祉
キーワード『協働』

夢プラン　⑰みんな参画　新しい地域福祉づくり

計画の柱①　生きる、楽しむ、感じる「食事」を

キーワード　『食』

地域では、親しみのある商店や食事処などが減少し、近くにあった店がなくなり遠くまで買いに行かなければならなくなったことや、移動販売に頼られていたが後継者不足等の問題があり来られなくなったことなどで、お困りになられている住民がたくさんいらっしゃいます。また、足の不自由な方や重たいものを持つことができない方から、「買い物に行けない。家まで持ち帰ることができない」とお困りの声をお聞きすることもあります。

市社協が朝来市における買い物に対しての実態把握をするため、民生委員はじめ多くの方にご協力いただき実施した調査報告の一部をご紹介いたします。

調査報告（平成 28 年 4 月～5 月調査実施）より一部抜粋

アンケート内容	アンケート結果
移動手段（車等）がない高齢者世帯、障がい者世帯はありますか？	移動手段がない高齢者世帯・・・580 世帯 障がい者世帯・・・・・・・・・ 64 世帯
移動手段がない世帯の方はどのようにして買い物に行かれていますか？	上位回答５項目（重複有り） １位　親族の方（主に子どもさん）が定期的に買って届けられる。 ２位　アコバスを利用して行く。 ３位　近所の方や親しい方に乗せて行ってもらう。 ４位　歩いて行く。（近所に商店、スーパーがある方） ５位　宅配を利用している。

移動手段がない、歩行がしにくい、親族の協力が得られない方であっても、近所の方が気にかけておられたり、介護保険サービスの利用でヘルパーに買い物を頼まれたりして、食の確保が出来ないので困っておられる方は少ないように感じられた。

※他にも移動販売が来られている地区や高齢者が好まれる食品等、調査させていただきました。

どのようにしたら、思いのままに食材や日用品などを入手し、地域の中で暮らしやすくなるか色々な方法や提案を考えてみました。

≪新たな支え合いのかたちのヒント≫

- 点で支えるのではなく面で支えていけるように考える。
- お店が現地に向かう発想を考えてみる。
- 地域で出来ることはないだろうか。
- 地域団体や近所の助け合い。
- パソコンや端末機器を使用して簡単で安心にオーダー（インターネットによる注文）することはできないか。
- 店舗や事業所に応援していただけないだろうか。

今こそチャレンジ！　地域の『夢プラン』

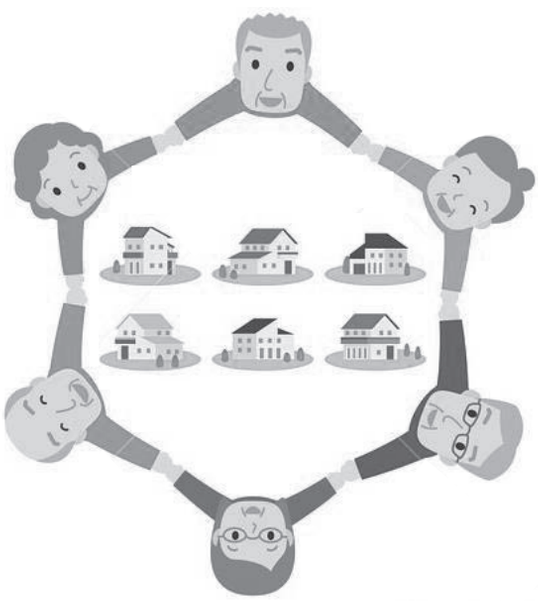
	夢プラン	期待できる効果
①	近所の助け合い 意識してみませんか？	地域の中で助け合うことで、お互いが気遣える関係ができる。 食材や日用品など、ほしいと思った時に簡単手続きで安心して入手することができる。 たくさんの人と関わりを持つことで助け合いの輪が広がる。
②	誰でも寄れる食堂開店	
③	自分たちの地域コンビニ	
④	地域団体（ミニデイ）の進化	
⑤	いつでも注文　受発注システムの構築	
⑥	一歩踏み出す店舗・事業所とのタイアップ	

夢プラン①　近所の助け合い　意識してみませんか？

車に乗れない、足が悪くて遠くまで歩くことができない、重たいものを持って帰ることができない等、買い物に行けない理由はさまざま。買い物に行けない方の中には、ご家族やお友達に頼むことができない方もおられます。地域の中で気づき、お互いに助け合ってみてはどうでしょうか？

■ 近所の助け合い

・車の乗り合わせでお買いもの。
・たくさん作りすぎちゃった。お裾分け。
・行ったついでに買ってきてあげる。
・将来的なことを考えて助け合いの構築　等。



夢プラン②　誰でも寄れる食堂開店

経済的な事情などで食事も満足に取れない世帯に、無料または格安で食事を提供する「子ども食堂」の取り組みが全国で広がっています。取り組みを通じて、栄養バランスの確保、生活困窮支援、母子家庭への支援として明らかな成果が報告されています。

イメージ写真

事業名：子ども食堂・ママカフェ・地域食堂

＜取り組み概要＞

場　所　　子どもが来れそうな場所
　　（まずは社協の入る公共施設で実験的実施）
日　時　　子どもの長期休みのお昼
代　金　　１００円　　大人は３００円　　→　売り上げは運営費に
担い手　　ボランティア
食　材　　善意銀行やフードバンクの取り組みより

子ども食堂をベースに・・・

子育てママ食堂（ママカフェ）

イメージ写真

子育て中の親子さんを対象。普段に自分の食事も手抜きがちになるママに、おいしい食事と楽しい会話ができる場をご提供。担い手となる保健師、看護師、ご近所のママに悩みごとお困りごとを打ち明けられる環境をつくります。
虐待のニュースが次から次へと増える中、精神的なケアの場としても有効と思われます。

アパート住まいで知り合いのいないお母さんの存在をよく耳にします。
気軽にご飯を食べに行き、お友達づくり。
強力なボランティアさんがサポート！

夢プラン③　自分たちの地域コンビニ

地域の拠点にコンビニをつくるイメージで、家で作った野菜や不要になった日用品を持ち寄り販売するのはどうでしょうか？市社協が年に１度させていただいている福祉バザーのようなことを各地区で行うと交流が楽しく、お互いに助かるのではないでしょうか？

例えば、その拠点を寝たきりの方のご自宅にすると、寝たきりの方が参加できるミニデイに早変わり！買い物はできるし、地域ミニデイとしても機能するというプランはいかがですか。

また、地域ミニデイで集まっている場所に移動販売車に来ていただき、公民館に寄ったついでに買い物もして帰れる！このような買い物の手段を、市内のある地域ミニデイで取り組まれています。ミニデイ参加者の方からは、とても便利なので来ていただく回数が増えれば嬉しいとお聞きしています。

そして買い物の手段として、宅配を利用しご自宅まで商品を届けてもらうことを考えてみました。開催されている地域ミニデイにお邪魔し、宅配について住民の方に意見をお聞きすると、「カタログの文字が小さいので読むことができない」「目が悪いからマークシートの記入が難しい」等、利用したくてもできない理由を持っておられる方がたくさんおられました。そんなとき、地域ミニデイで集まっておられる時にみんなで寄って宅配を利用することができれば、目の悪い方もマークシートの記入を友達や知人に頼むことができ、宅配を利用できるのではないでしょうか？足が悪くてスーパーまで行きたくても行けない方や、近くにスーパーが無くて困っておられる方が宅配を利用できるようになったら便利ですよね。地域ミニデイに集まっているみんなでカタログの写真を見て、「これ美味しそう！」「この品物よかったで！」等、楽しい会話ができればいいですね。

夢プラン④　地域団体（ミニデイ）の進化

現在、朝来市には87団体の地域ミニデイがあります。地域ミニデイのかたちは色々で、カフェのように集まってコーヒーを飲みながら交流を楽しまれたり、食事会やゲームなどの催し物をみんなで企画して、ご高齢の方に限らず誰でも参加できる地域の輪をつくっておられます。

その地域ミニデイを時代に合わせて進化させていくことをご提案。

≪段階的進化≫

イメージ写真

地域ミニデイ

イメージ写真

ふれあい喫茶
コミュニティーカフェ

イメージ写真

オープンカフェ

１日食堂
１日居酒屋

誰もが気軽に立ち寄ってお茶を楽しんでいただけるように『ふれあい喫茶』をされているところや、時間を決めずにコミュニティーカフェの場をつくっておられる地域もあります。

■ オープンカフェ

パラソル付きピクニックテーブルを使用し、オープンカフェおしゃれにされてはどうでしょうか？青空の下みんなでカフェを楽しみ、通りすがりの知人もお誘いして交流の輪を広げるようなこともできるかもしれません。ここでこんなに楽しいことをされていると周りからの認知はバツグン！！

とまり木サロンわだやま（駅前区）でのーコマ。誰でも寄りやすい雰囲気が素敵です！

■ １日食堂・１日居酒屋

オープンカフェから食堂や居酒屋へ進化してみてはいかがでしょうか？食事の１食でも２食でもみんなで栄養バランスを考えて調理を楽しみ、グループで会話をしながら食事ができる。食材は、各自でつくった作物を持ち寄って使用するのも良いかもしれません。また、夜にみんなでお酒を持ち寄ってワイワイと楽しみ、地域の中で一人暮らしの方をお誘いして仲間を増やしていき、『助けられ上手と助け上手』の関係を築き上げていく。隣り近所でお互いさまの生活が、住み慣れた環境でできると幸せですね。

夢プラン⑤　いつでも注文　受発注システムの構築

例えば、市社協のホームページ上に注文画面（オーダーフォーム）があり、新鮮な作物が格安でパソコンもしくは端末機器の画面から簡単に注文でき、家まで届くシステムがあれば便利だと思いませんか？足が痛くてお店まで行けない方も、重たい荷物を持ち帰ることができない方もこのシステムがあれば簡単、安心して食料品や日用品等を入手することができます。また社協が P36 の図のように間を取り持たせていただくので、明らかに多くの注文や不必要な品物の誤った注文等、できる範囲でフォローさせていただくことができます。

注文画面（オーダーフォーム）の商品は、地元の農作物や地元企業の商品にすれば、農家でたくさん作られた野菜を販売することができ、地元企業の商品を販売することで活性化に繋がります。休耕田を利用して、地区で野菜をつくり販売していただくことになると、休耕田の利用、地域の収入増加にも繋がり一石二鳥となります。このようなシステムがあればとても良いと思われませんか？

→詳しくは、計画の柱④へ

夢プラン⑥　一歩踏み出す店舗・事業所とのタイアップ

■　移動食堂（移動カフェ）

月や曜日、時間を決めて協力していただけるお店に公民館や会場に出向いていただき、その場で本格的な軽食やケーキ、コーヒーを味わうことができる。オープンカフェで高齢者になってもオシャレな時間を過ごすことができれば健康で長生き出来そうですね。

■　ほっぺたおちそう（ご馳走）事業

市内の飲食店と朝来市社協が業務締結し、ピザやお好み焼き、にぎり寿司等を飲食店から配食サービスの便を利用してご自宅まで配達させていただく。お一人暮らしの高齢者の方は配食サービスをご利用になられている方が多数おられますが、歳をとって家から出られなくなっても美味しい物は食べたい！誰でも思われますよね。社協の配食サービススタッフに任せることで安否確認も可能となります。安心・美味しいをお届けできるサービスはいかがでしょうか？

計画の柱②　支え合う安心 ここに暮らし続けたい

キーワード『安心』

高齢者世帯や生活困窮世帯等は増加傾向にあり、暮らしの中で様々な不安を抱えられ、時にはそれが深刻な福祉課題として浮き彫りになってきています。時の流れで「仕方ないこと」と認識しながらも、それでも「私たちが地域で出来ることはないだろうか」と考えることが、思わぬ展開を呼び込んだり、前に進んでいく第一歩になると思います。不安が少ない老後に向け、動き出しませんか？

≪お一人暮らしの現状≫

・自分の健康に不安がある
・年金だけでは暮らしていけない
・インスタントや惣菜など食生活に偏りがある
・夜に急な孤独感に襲われる
・訪問販売に騙されるかも…
・世間の情報についていけない
などなど

≪新たな支え合いのかたちのヒント≫

・空き家が急速に増えているが、活用できないだろうか
・水道光熱費、なんとか節約できないか
・向こう三軒両隣でのお付き合い
・親しい家へのお泊りが懐かしい
・頼れるのは隣り近所

ヒントを少し探ってみました！

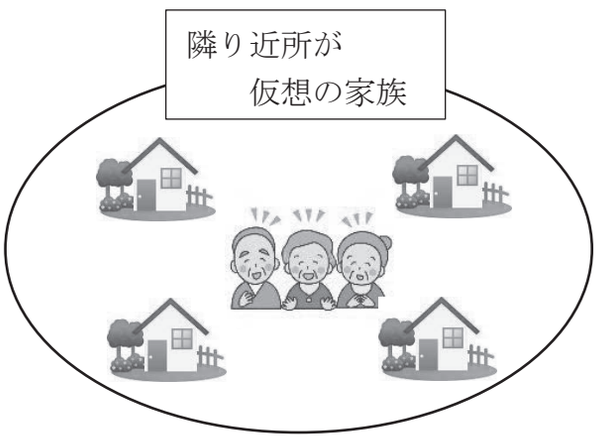
今こそチャレンジ！　地域の『夢プラン』

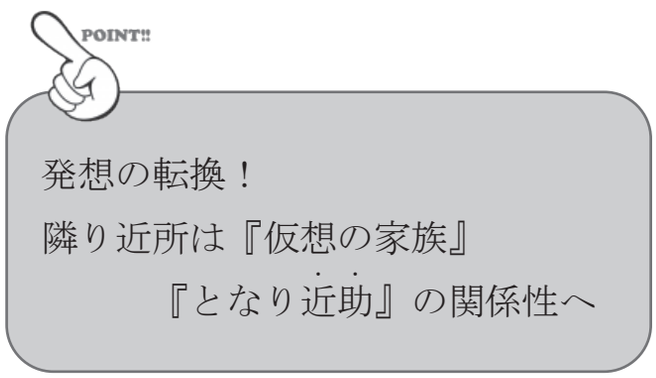
	夢プラン	期待できる効果
⑦	発想を転換！ 隣り近所は「となり近助（きんじょ）」へ	地域内の見守り・安否確認・一人暮らしや夜の不安の軽減・電気代の節約・安心した入浴・食生活の安定・認知症予防・介護者負担の軽減・災害等の緊急対応など
⑧	安心を貯蓄　大切な命を繋ぎとめよう	
⑨	気になる人（要援護者）も安心で繋がる地域	
⑩	お一人暮らしの節約・分担生活	

夢プラン⑦　発想を転換！隣り近所は「となり近助（きんじょ）」へ

昭和の時代の「隣り近所」や「向こう三軒両隣り」の関係はとても結びつきが強く、何かあった時は共に喜び、共に悲しみ、共に助け合う「困った時はお互いさま」の関係が成り立っていました。社協はこの関係性に注目し、なんとか助け合う地域をできるだけ小さい範囲で再現できないだろうかと思い描きました。

ここ数年の間にますます独居世帯が増え行く中、一人で生きていくのも難しくなる話も多く聞くことでしょう。これからは、隣り近所を『仮想の家族』と捉え、『となり近助（きんじょ）』の支え合いで生き抜く発想も必要になるかと思われます。





夢プラン⑧　安心を貯蓄　大切な命を繋ぎとめよう

災害時の避難や対応においては、必要な資材が手に入らない状況が想定されます。特に災害初期については最低限のものも手に入りにくい状況があります。個人で最低限の非常時の資材を持つ意識は高まりつつありますが、地域単位となると、行政支援に頼るのが現状です。

そこで、普段から地域での防災・減災への意識を高め、必要な方に必要なタイミングで支援できる資材の備蓄が望まれるところです。地域で食料を備蓄していく取り組みと合わせ、持ち寄り、購入などで資機材や非常食を普段から備蓄しておけば、いざという時に対応ができます。巨額な予算を投入する必要もありません。また、その過程において地域住民の方の意識も高まり、災害時には大きなマンパワーとして頼れることも期待できます。

事業名　食糧・資材の備蓄システムの構築

夢プラン⑨　気になる人（要援護者）も安心で繋がる地域

地域には気になる方や支援が必要な方がおられますが、ご本人の拒否や個人情報の関係で、なかなか支援が行き届かない方がおられます。一度、宿泊の機会を作ってみませんか？子供の頃のワクワク・ドキドキを思い出し、過去の話に花が咲いたり、近況が分かったりとサービスに繋ぐきっかけ作りになるかもしれません。

また、大雨や地震などの災害時では、地域で要援護者の安否確認をしたり、避難の誘導や支援することなどが必要になります。何も事前の情報が無ければ、どうしたら良いのか分からず、対応に苦慮するでしょう。しかし、このような機会をつくっていくことで、地域の皆さんが要援護者の方々を支えていく意識が強くなっていくと考えます。

事業名：要援護者の公民館宿泊

気になる方の公民館宿泊

宿泊のメリット

- 気になる方の把握ができる
- 災害時の支援の訓練ができる
- 人の繋がりを感じ合う

夢プラン⑩　お一人暮らしの節約・分担生活

お一人暮らしでは高齢や障がいなどにより多くの不安を抱え、限られた年金の中で生活していかなければなりません。実際に地域で耳にする機会は少ないですが、潜在的にある社会的な課題でもあります。

そこで提案するのが一時的な共同生活。お泊り会のように誰かの家に、公民館にご近所で泊まることで高熱水道費の負担を減らし、高齢者の夜の不安の軽減も図ります。近所の誰かがそばにいてくれる。思わぬ沢山の効果を発見することでしょう。

事業名：地域内の一時的な共同生活

共同生活

バーチャル家族
（仮想家族）

一人だと毎晩が不安になるけど、みんながおるし、安心やわぁ。電気代とかも分けるから節約にもなるしのぉ。

共同生活のメリット

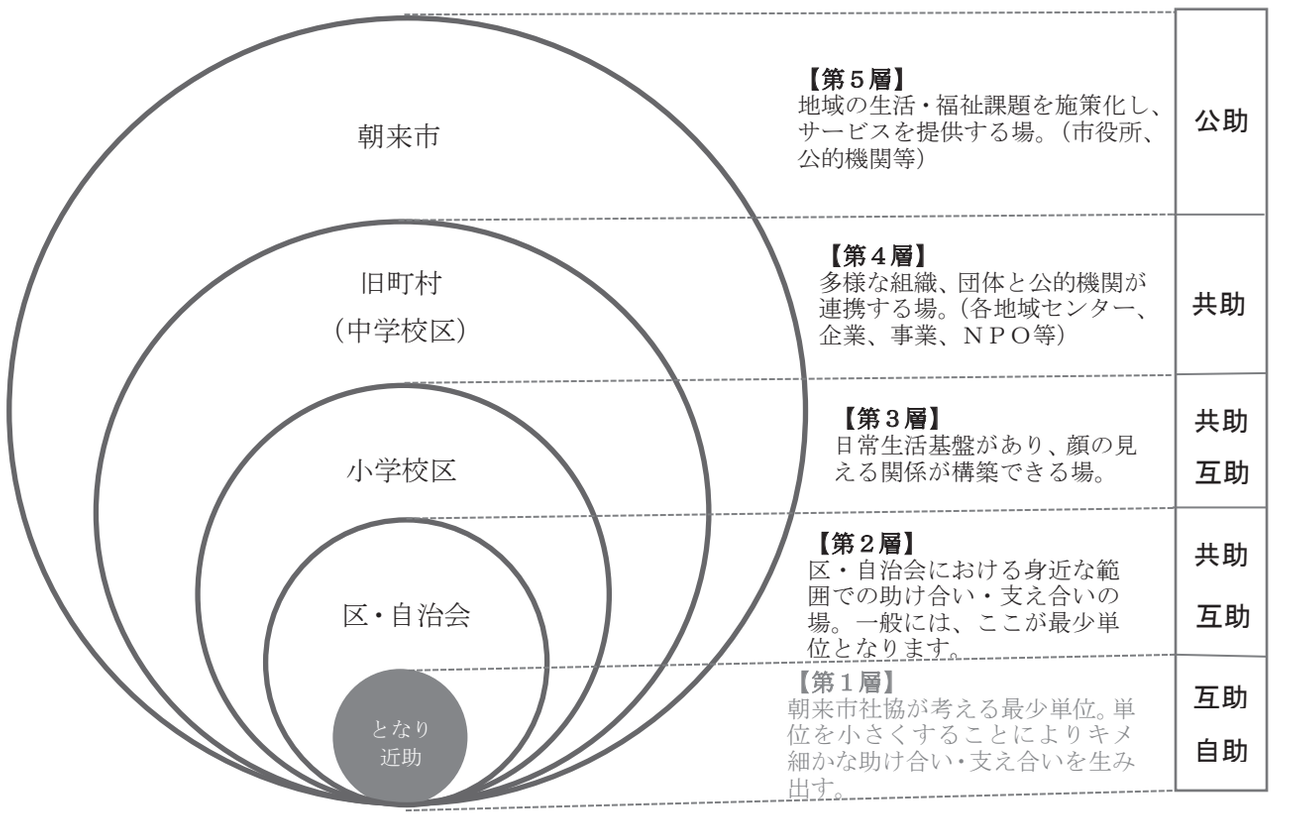
- ○　一人暮らしの不安が減る
- ○　水道光熱費が減る
- ○　みんなで料理し栄養の確保
- ○　色々と情報交換
- ○　お互い安否を確認
- ○　生きがいづくり
- ○　地域住民もボランティア参加で福祉の意識が UP　など

「気軽な気持ちでレッツ・トライ！」

計画の柱③　「となり近助（きんじょ）」お互い様の歩み寄り

キーワード『となり近助』

地域福祉を推進する重層的な圏域の設定



朝来市では、市全域を第１層・中学校区単位を第２層・小学校区単位を第３層として考えられています。市社協では、住民により近い『となり近助（きんじょ）』を第１層と考え、順に広がるごとに層を重ねるボトムアップの見方をしています。この第１層、小さな繋がりこそ助け合い・支え合う基本と考えています。

同じ地区の方が「助けてほしい」、「なんとかしてほしい」と思われている方がおられるかも。もしかしたら、その方は気が付いてほしいと思われているかもしれません。となり近所に助けてくれる人がいれば、何歳になっても、安心して住み慣れた地域で過ごすことができます。

昔には、「お節介さん」がたくさんおられたとお聞きします。お節介さんによって、身内にはできないお手伝いができたこともあるようです。現在の地域には、お節介さんが必要ではないでしょうか？社協にお節介さんをご紹介していただければ、お節介さんをサポートさせていただき、住み良い地域づくりに協力していきます！

実際、次ページのように、住民の方にはたくさんのお困りごとがあり、介護保険サービスや遠方のご家族の力を借りながら家で過ごされている方も少なくありません。

地域住民のお困りの声

生活全般では

・ゴミ出し、分別ができない。
・電球の取り換えができない。
・雪かきができない。
・花の水やりができない。
・犬の散歩ができない。
・郵便物の確認、整理ができない。
・掃除、粗大ゴミの運搬、家具の移動ができない。廃品回収の準備もできない。
・冬場の灯油の運搬、補充ができない。
・排水溝、換気扇の掃除ができない。
・服薬や食事の声かけをしてほしい。
・手紙や書類の代筆をしてほしい。手紙の内容がわからない。
・野菜の収穫ができない。
・布団が重いので、布団干しができない。
・荷物が重くて、買い物しても持って帰ることができない。
・自分で商品を選んで買うことができない。

食事では

・一人では調理ができないため手伝ってほしい。
・長時間炊事場に立っていられない。
・鍋を焦がしてしまうことがよくあるので、調理してほしい。

外出・通院では

・移動の手段がなく、外に出られない。
・外に出たいが独りでは不安。付き添ってほしい。
・タクシーは便利だが、お金がかかる。
・バスの本数が少なくて不便（行っても帰れないこともある）。
・病院が遠いので送迎してほしい。

その他

・もっと人とおしゃべりしたい。世間話がしたい。
・夜間に不安を感じる。
・安否の確認をしてほしい。

今こそチャレンジ！　地域の『夢プラン』

	夢プラン	期待できる効果
⑪	住民ボランティアによる お助けグループ活動	現金や地域通貨、ポイントの支払いでちょっとしたお困りごとを解消！
⑫	会員制の助け合い活動	
⑬	ちょっとしたお手伝いが ちょっとしたボランティアに	ボランティアで助け合いの輪を広げます。

夢プラン⑪　住民ボランティアによるお助けグループ活動

（事例紹介）

広がり始めています！住民同志の支え合いの輪。

自治会役員・民生児童委員・住民が中心となり協議を重ね、生活上のちょっとした困りごとを住民同志で助け合う「お互いさま隊」（住民ボランティア）を発足。

最初に住民の生活課題を把握するため、全世帯を対象に、アンケート調査を実施。その結果、高齢であったり、身体が不自由な為にゴミ出しに苦労している人がいるとわかりました。

そこで「お互いさま隊」では、まずはゴミ出し支援に取り組むことにしました。支援時に、一人ひとりに声かけすることで安否確認にもつながっています。依頼 1 回につき 100 円を払うというルールを決め、支援される側が気兼ねなく頼むことができるよう工夫しました。いただいた 100 円は、「お互いさま隊」の運営資金にあてています。

これからも、住民同志で知恵を出し合って、助け合いの輪を広げていきます。

夢プラン⑫　会員制の助け合い活動

（事例紹介）

介護保険制度対象外の生活支援への対応で、介護保険事業者等が苦戦していることを受けて、平成 21（2009）年度に、市内の社会福祉法人や介護事業者、社会福祉協議会、地縁組織などとともに運営協議会を設置して「N市高齢者サポートセンター」を運営開始。官民挙げてのネットワークづくりをすすめ、平成 27（2015）年度の介護保険制度改正への先駆事例として注目されています。

事業・活動概要

① 高齢者（主に介護保険制度での自立者を対象）

掃除や洗濯、買い物などの家事支援、草取りなど家周りの手入れ、通院や散歩、買い物などの外出支援、見守り・話し相手、簡易な修繕、犬の散歩などを行います。

② 子育てに対する各種支援（一時保育支援、送迎、障がい児支援等）
③ 地域住民間のコミュニティ活動に対する各種支援（高齢者の居場所サロン事業、サークル活動等）
④ まちづくりに関する各種支援及び調査研究事業（N駅前自転車放置防止誘導事業、商店街支援等）

利用料金

活動の担い手は「謝礼ボランティア」としており、お手伝いを利用した際には1時間当たり地域通貨「800げんき」を受け取ります。800げんきのうち、200げんきは運営費として事務局が受領し、600げんきを活動会員が受け取ります。地域通貨「げんき」は、提携している地域の商店や公共施設等で利用することができます。

（注）1げんき＝1円

有償のボランティアや地域通貨を設定したボランティア、ポイント制度を利用したボランティア等、いろいろな形で地域の支え合いは増えてきています。朝来市も支え合いの輪を広げ、住み慣れた地域でいつもでも安心して暮らしていけるようにみんなで考えていきましょう！

夢プラン⑬　ちょっとしたお手伝いが ちょっとしたボランティアに

「お店に連れてって」「おかずを作ってほしい」「食後薬の確認をしてほしい」等のちょっとしたボランティア（以下、「ちょボラ」）を市社協通じて派遣させていただくシステムを構築します。現在は、本会の居宅介護支援事業所の担当ケアマネジャーに、一人暮らしの方のニーズをお聞きし派遣するように考えておりますが、将来的には地域の一人暮らしの方や高齢者世帯の方、他事業所のケアマネジャーにもニーズをお聞きし対応していきたいです。助けられ上手、助け上手のお手伝いをしたいと考えています。

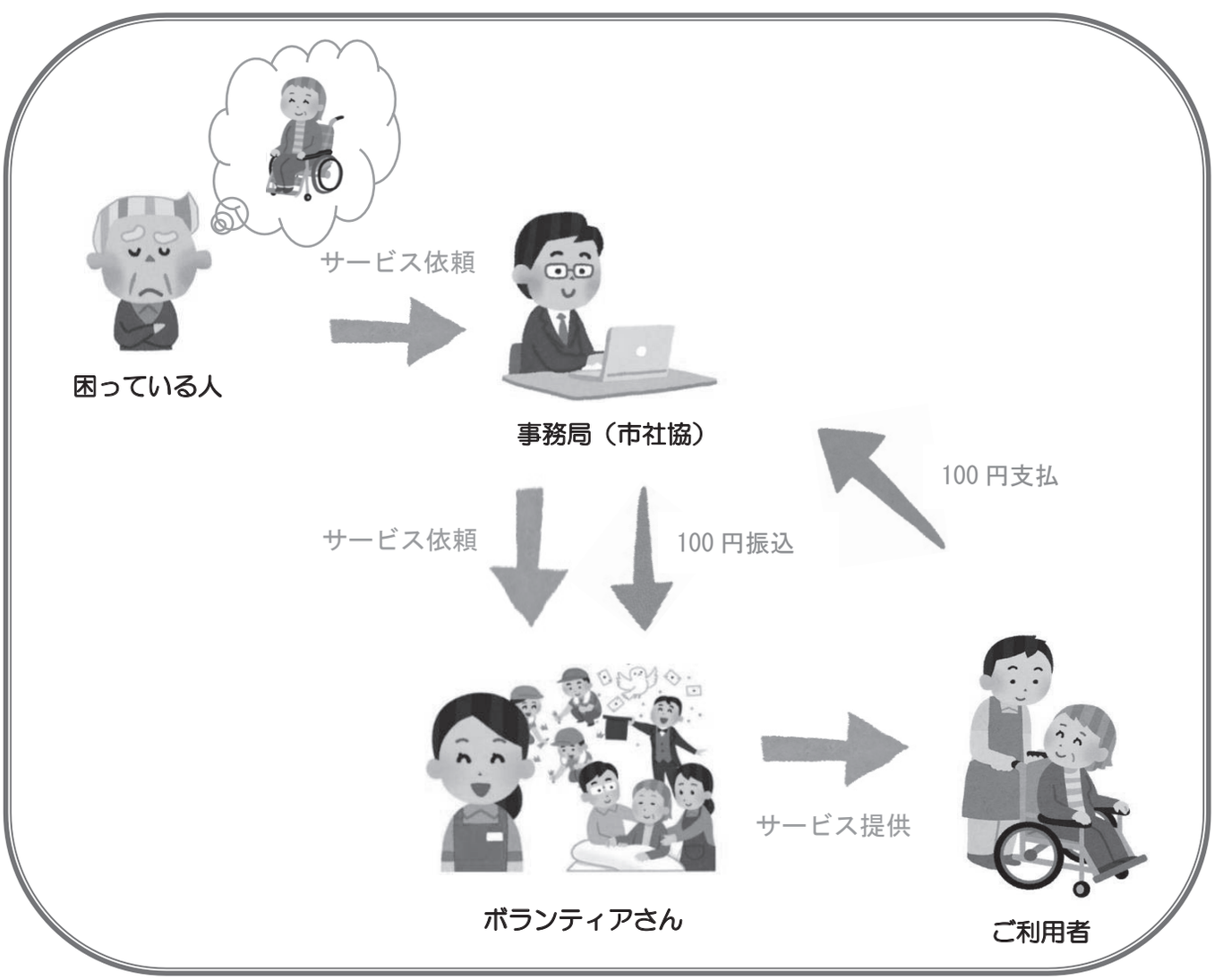
ボランティアグループにちょボラの登録していただき、お困りの方があれば、近くのボランティアグループのメンバーにお願いさせていただく。グループなので一人で出来ないお手伝いも出来るかもしれません。みんなで力を合わせて助け合う形が普及すれば、地域のボランティアグループも増えていくと思われます。上記では、現金や地域通貨を使用した支払いの事例を挙げておりますが、地域でポイントをつくり、ちょボラを利用すればポイントが溜まる、溜まったポイントを有効利用できるシステムもいいかもしれませんね。

ちょボラの有償化については、ボランティアを受けた分の費用をご利用者が自ら負担することで、気兼ねなくボランティアを利用したり困っていることを相談したりすることが

できることを目的としています。格安でちょっとした困りごとを解消できれば嬉しいですよね。

（例）ゴミ出し、ゴミ分別
雪かき
犬の散歩
掃除　家具の移動
食事の声かけや服薬の確認
手紙の内容のお伝え
お茶を飲みながら世間話
将棋や囲碁の相手
電球の取り換え
花の水やり
郵便物の確認や整理
冬場の灯油の運搬、補充
手紙や書類の代筆
野菜の収穫
墓地の掃除

等々。　すべて１回　100 円



計画の柱④　地域のための、お金の生み方

キーワード『お金』

これから受給できる年金は年々減少傾向にあり、それを補うために定年退職しても経験や技能を生かして、まだ仕事をし続けるという新しい老後スタイルが定着しています。

みんなで楽しい老後はもはや夢物語。それほど老後のお金は厳しい状況にあります。そして、個人のお金の厳しさは地域にも大きく影響を及ぼし、地域の運営・維持が難しくなるという状況も生まれてきます。

しかし、全国規模で見ると、地域の社会資源を上手く活用して収益を上げる「コミュニティビジネス」の好例があり、福祉的に見ても“生きがいづくり”や“健康づくり”に大きく寄与しているようです。地域住民が力を合わせて自分たちで生き抜いていく方法を作り出した結果であり、朝来市においても知恵を結集し、取り組む時代に突入したのではないでしょうか？

≪年金生活者の個人の現状≫

・区費を払うのが厳しい
・食費が質素になり、栄養のある食事がとれない

・身体状況が悪化しているのに住宅を改修できない
・満足に病院に通えない
・移動手段が無いので移動できない
・子供などへの支援ができない
などなど

個人のお金が地域に集まらなければ…

≪お金が無い地域はどうなるのか…≫

・区や老人クラブなどの会費が徴収できず、組織が運営できない
・祭りや葬式、伝統芸能が維持できなくなる
・自分以外の誰かに何かしてあげるという気持ちがなくなる
・ますます地域離れが進み、その土地を離れる人が増えていく

お金がない高齢者等が増えれば地域にも大きな影響が…。個人が無理なら、地域のみんなでお金を生み出すことに知恵を絞り、チャレンジが必要かもしれません。

今こそチャレンジ！　地域の『夢プラン』

	夢プラン	期待できる効果
⑭	生み出せお金！地域資源を生かしたコミュニティビジネス	地域課題の解決、収益の確保、生きがい・健康づくり、地域の福祉力の向上、必要な日常生活用品の確保
⑮	持続可能な新たな買い物手段	
⑯	仮想通貨を利用して地域の活性化	

夢プラン⑭　生み出せお金！地域資源を生かしたコミュニティビジネス

佐中区は谷の奥地に立地し、高齢化が 50%（平成 23 年当時）の集落。そのことから移動の問題が深刻であり、これからどんどん高齢者が増える中、なんとか町に出て通院したり、買い物できるような足を確保したいという思いを持たれていました。そこで、「じゃあ、自分たちで基金を貯めて、そのお金で移動手段を確保しよう」という話になり、集落の中の休耕田を利用してフキの栽培に取り組みました。

失敗続きだったフキ栽培も今ではまとめて収穫できるようになり、個人の注文に対応でき、少しずつ収益が上がるようになりました。基金として貯まり、新たな移動手段を確保することが出来るのか期待です。

地域の課題を共通理解し、みんなで取り組む。その頑張りが利益を生んで課題解決に繋がり、また循環していく。コミュニティビジネスの第一歩です。一度、皆さんのところでも考えてみませんか？

夢プラン⑮　持続可能な新たな買い物手段

過疎化やお店の撤退などで、多くの高齢者や障がい者の方にとっては必要な日常生活用品を気軽に購入しにくい状況にあり、地域課題として浮き彫りになっています。地域としてどのように対策を考えていくのか。このような地域課題に既存の地域ミニデイから発展した事例があります。将来的にお金を生み出していくヒントがあるかもしれません。

事例紹介　～立野ミニデイ『ひなた』の取り組み～

◎ミニデイに合わせ、月２回行商が来られており、共同購入の場として機能しています。

◎また、月２回ミニデイの日に希望者から商品の注文をお聞きし、とりまとめ。

その後、スタッフが町内のスーパーに行き、買い物を代行。

最後に商品をお渡し、代金を清算。

例えば、地域の拠点が高齢者等から注文を受けます。
その手数料をお店からいただくなどもお金を生み出す方法ですよね。
手数料の変わりに、価格を下げるのもいいかもしれません。

事業名：商品受発注システムの展開例

注文受けるのも、ホームページからの申し込み、メール、FAX、電話など色々あります。スタッフが御用聞きのように回っていくのも、高齢者の方にとれば嬉しいかもしれませんね。

夢プラン⑯　仮想通貨を利用して地域の活性化

（事例紹介）

S 市地域協議会では、住民同士の助け合いによる生活支援サービスを提供されています。ご利用者は 1 枚 200 円の「ありがとう券」を地域協議会から購入し、掃除や付き添い、修理などのサービスを利用した際に、支援されたボランティアにお礼として 20 分あたり 1 枚の券を渡す。ご利用者から受け取った券は、市内の協力店で 1 枚 150 円分として使用することができる仕組みとなっています。ご利用者も気軽にお願いごとを頼むことができ、「ありがとう券」で地域が活性化しています。

また、Y 市では介護予防を目的とした 65 歳以上の高齢者がボランティアをした場合にポイントを付与し、溜まったポイントに応じて、換金等を行うことにより、実質的に介護保険料の負担を軽減できる「介護支援ボランティアポイント制度」を実施されています。

これらの事例も参考にしながら、地域の活性化、地域で生み出すお金を考えてはいかがでしょうか。

計画の柱⑤　協働が育む 新しい地域福祉

キーワード『協働』

公私が協働して地域や地域住民にアプローチする「共助」の活動が注目されています。「自助」や「公助」の活動にも限界がある中で、こうした「共助」の取り組みは専門性や支援規模の面でとても大きな力となり、地域の福祉力を高める役割を担う役割が期待されています。

今こそチャレンジ！　地域の『夢プラン』

	夢プラン	期待できる効果
⑰	みんな参画　新しい地域福祉づくり	公私が一緒になって行うことで、専門的かつ住民目線のサービスの提供が可能となり、「自助」や「互助」、また「公助」だけではできない細やかな支援や専門的な支援が可能

夢プラン⑰　みんな参画　新しい地域福祉づくり

平成 27 年度の介護保険制度改正により、『比較的元気な要支援 1・2 の方』や『各区単位にある地域ミニデイに参加するには身体的に難しい虚弱な高齢者』は介護保険で通所サービスを利用になることが出来なくなり、何かしらの通所支援等のサービスの創出が望まれています。

一方、社会福祉法人は地域に公益性のある活動を行わなければならないことが法律上で明記されており、国も社会福祉法人の「地域公益活動」の必要性を強く示し始めました。

このような時代の流れの中、市内のある社会福祉法人では、高齢者の方を対象とした出張型のデイサービスを計画されています。

場所は社会福祉法人と同じ小学校区にある地区館を使用。社会福祉法人は通所サービスの送迎が終わった後に送迎車両を運行。通所サービスを利用できない、あるいは地域ミニデイに参加しにくい方々を送迎し、地区館にお連れします。併せて、専門職（看護師や介護職員）が派遣され、参加者の状態などを確認・把握しながら体操指導や情報提供を行い、地域への公益活動をされる予定です。

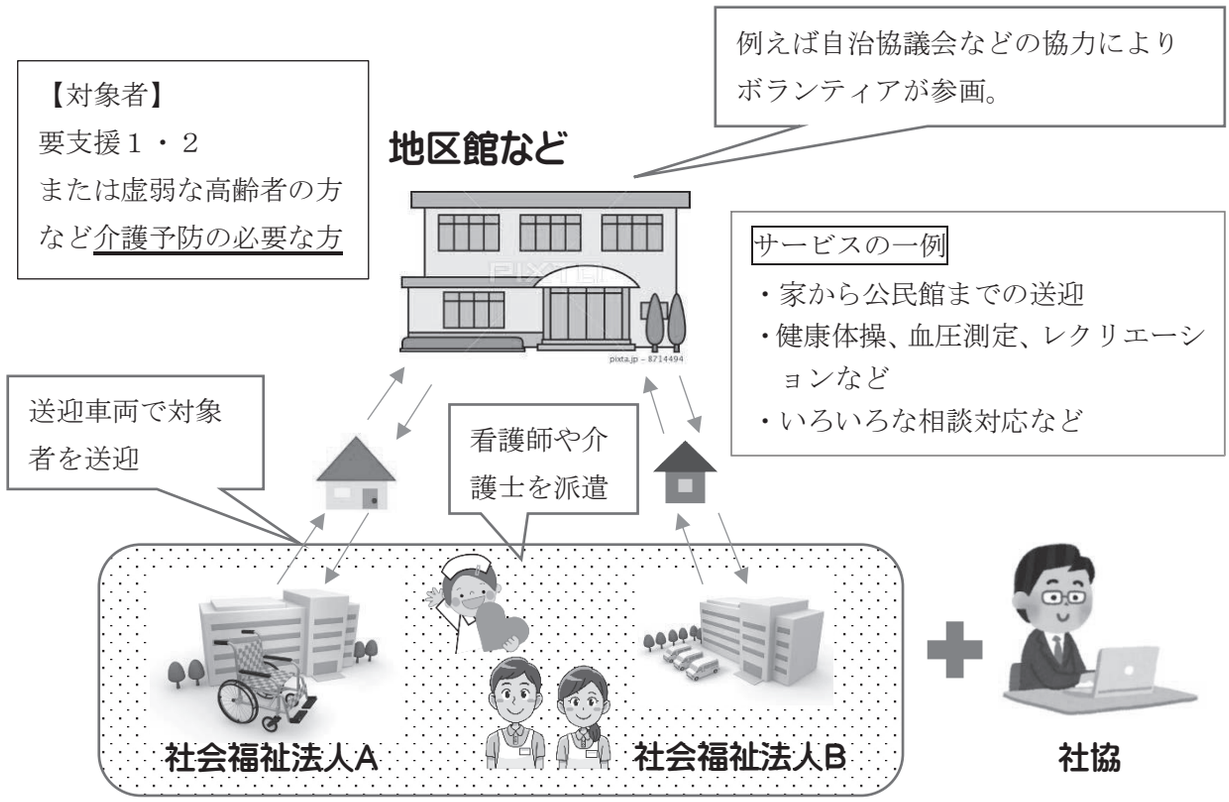
ただし、社会福祉法人だけでこのサービスを継続していくのは不可能であり、地域の参画も求められます。地区館貸し出しや、そのデイサービスの運営支援などで携わっていただくことで地元に根付いた細やかな支援が可能となり、地域の福祉を推し進めていくことが必要となります。

社協や行政も社会福祉法人と協働し、その対象エリアの情報提供や取り組みのお手伝い

をしながらその実施に向けて協力・支援を進めています。新たな「共助」の取り組みとして、今後大注目です。

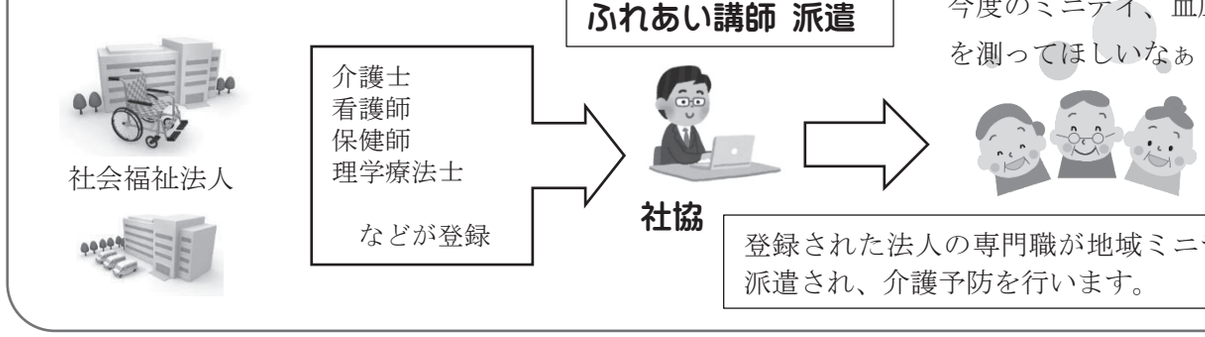
事業名：社会福祉法人の公益活動

協働の新しいモデル その（1）



例えば毎週実施となると、該当する社会福祉法人で分担し、それぞれ２週間に１度実施となる。すると法人にとっても無理がなく、継続した活動が期待できる。

協働の新しいモデル その（2）



登録された法人の専門職が地域ミニデイに派遣され、介護予防を行います。

高齢者等へのお声かけや日々の見守りなど、実施には地域住民の方の協力も不可欠です。関係機関だけではなく、地域の方も参画することで細やかな目配りが可能に。社会福祉法人も地域への公益活動を模索されていることから、これからの協働のモデルとして期待されています。

資料集

１．用語解説

２．朝来市社協の「３つのＣ」

３．地域発☆　支え合う地域の担い手メッセージ

用語解説

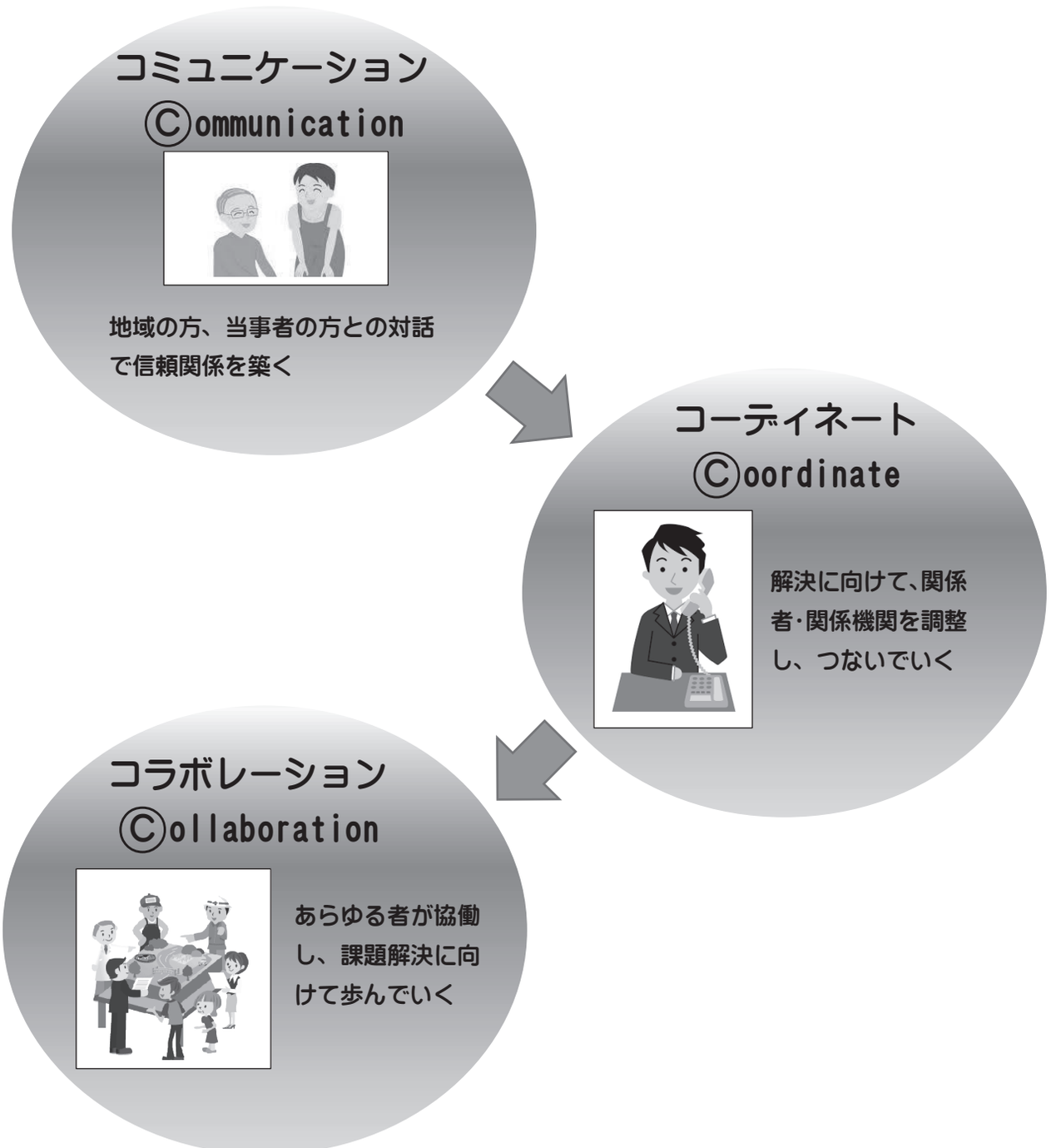
	用　語	解　説
あ行	アプローチ	対象とするものに近づいていくこと。
	オーダーフォーム	主にホームページ上などで商品を注文する時に入力する注文書のようなもの。
か行	合計特殊出生率	1 人の女性が一生に産む子供の平均数を示す。
	高齢化率	65 歳以上の高齢者人口（老年人口）が総人口に占める割合のこと。
	コミュニティビジネス	市民が主体となって、地域が抱える課題をビジネスの手法により解決し、またコミュニティの再生を通じて、その活動の利益を地域に還元するという事業の総称。 コミュニティビジネスは法人、資格を示すのではなく、「地域性・社会性+事業性・自立性」を伴った地域事業のことを指す。
さ行	社会福祉法人	福祉サービスの供給確保の中心的な役割を果たす（社会福祉事業)。また、地域の多様で複雑な福祉サービスにきめ細かく対応し、既存の制度では対応できない人々への支援を行う「地域公益活動」を責務として法律で位置づけられている。
た行	地域通貨	特定地域において、お金では困難なサービスの提供や人の結びつきの強化など経済的な目的とは別の理由で運営される交換経済のシステム。
	地域包括ケアシステム	介護の必要になった高齢者も、住み慣れた自宅や地域で暮らし続けれるように「医療・介護・介護予防・生活支援・住まい」のサービスを一体的に受けられる支援体制のこと。
	地域福祉計画	社会福祉法に規定され、地域住民の皆様の意見を十分に反映させながら行政が策定する計画であり、今後の地域福祉を総合的に推進する上で大きな柱になるもの。
	地域ミニデイ	歩いて行ける公民館などで、健康体操やレクリエーション、おしゃべりを通じて、健康や生きがいづくり、安否確認などの効果を期待する取り組み。主に住民による取り組みを指す。
	デマンドバス	事前に電話などで予約した日時で、指定場所から乗車するバスのこと。
は行	プロセス	物事が変化するときの経過。物事が進む過程のこと。

“地域のコンサルタントであるために” 朝来市社協の「３つのＣ」

地域と対話しながら、課題解決に向けて地域と共に歩みを進めていく支援過程を、朝来市社協の「3 つのＣ」としてまとめました。

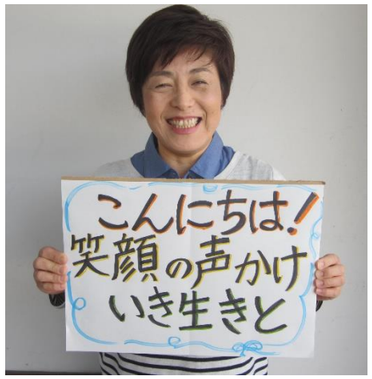
この「3 つのＣ」は朝来市社協の基本戦略であり、地域福祉を推進するための業務スタイルでもあります。

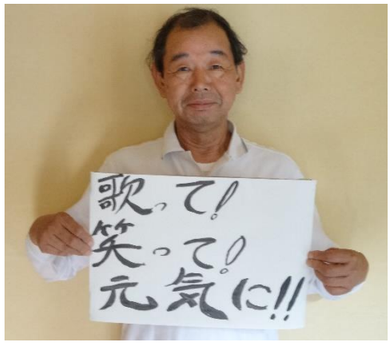
また、この「3 つのＣ」は地域福祉を推進するための区長様や民生委員様、近隣住民の方々などと連携を図ることも強く意識していきながら、計画の実現に向けて歩みを進めていきます。

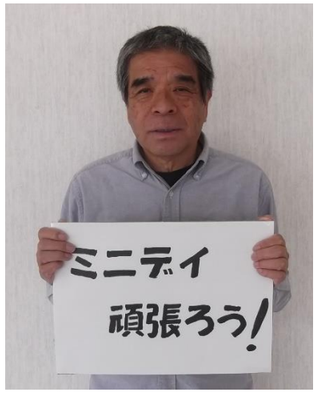


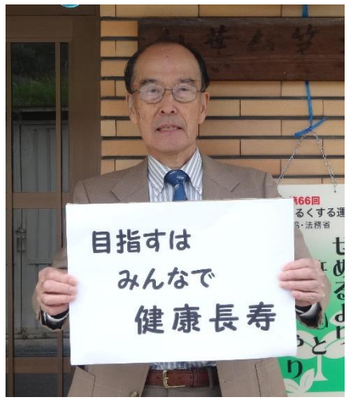
地域発★　支え合う地域の担い手 メッセージ

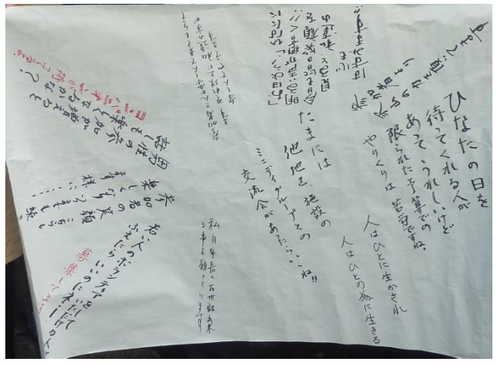
熱い思いで地域を支える皆さん！その思いや決意をメッセージでいただきました。











第2次朝来市地域福祉推進計画
平成28年度～平成32年度

発　行　日　平成28年11月
編集・発行　社会福祉法人朝来市社会福祉協議会
〒669-5152
兵庫県朝来市山東町楽音寺95番地
電話　079-676-5213